令和　7　年度

事務事業評価シート【歴史・文化・芸術分野】

（　　中央公民館　　）

（　歴史民俗資料館　）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

目　次

1　郷土を愛する心と人財の育成
(1) 文化少年団活動（中央公民館）・・・・・ 1
(2) 特別展・各種講習会等の普及事業の開催（歴史民俗資料館）・・・・・ 2

2　歴史・文化・芸術の継承と活用
(1) 野辺地町文化祭（中央公民館）・・・・・ 3
(2) 文化財活用事業の実施（歴史民俗資料館）・・・・・ 4
(3) 民俗芸能の保存と継承（歴史民俗資料館）・・・・・ 5

3　郷土史資料や文化財の保存・活用の促進
(1) 資料のデータベース作成・整備事業（歴史民俗資料館）・・・・・ 6
(2) 中央公民館・図書館・歴史民俗資料館の施設の整備・・・・・ 7
(3) 史跡・文化財の維持管理と公開（歴史民俗資料館）・・・・・ 8
(4) 文化財調査事業（歴史民俗資料館）・・・・・ 9
(5) 埋蔵文化財発掘調査事業（歴史民俗資料館）・・・・・ 10

事務事業評価シート

施　策　名	郷土を愛する心と人財の育成	担当課名	中央公民館
事務事業名	文化少年団活動	担当者名	二木　智徳

事業の目的・内容	学校教育活動以外において、青少年に文化活動を図り青少年の健全育成を図る。
事業の対象	小学生及び中学生

事業費	年度	令和 6 年度決算	令和 7 年度決算	令和 8 年度予算
	金額	72 千円	74 千円	163 千円

事業の実績・成果等（数値）

最近の実績

	(R6)	(R7)	※延べ人数
・郷土カルタ	3人	3人	
・茶道	4人	3人	
・料理	4人	6人	
合　計	11人	12人	

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

男子の参加が少ない。
今後は、講座を増やして興味を持ってもらうよう選択の幅を広げたい。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・数年ぶりの再開なので、参加者の減少は仕方ないと思う。これから新しい講座や講師の確保を目指して継続してほしい。

・コロナ禍で活動が休止し、指導者も少なくなり、今後の活動が心配ではあるが、子どもたちが興味を持てるような内容のものが現在の３団体から１つでも加わることを希望する。

・少子化により活動の盛り上げは難しいと考えるが、子どもの興味の対象を取り上げるなどの工夫も必要では。

・子どもたちのための活動で意義はあるが、参加人数がもう少し増えることを望む。

評価委員意見（令和7年度）

・参加者が増える魅力的な講座や講師の確保を望む。

・学校行事、スポーツ活動等家族の考え方も変化している。文化活動は世代間の交流が必要。

・参加人数の増加を望むが、この活動を継続して子供達の居場所となる工夫をしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土を愛する心と人財の育成	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	特別展・各種講習会等の普及事業の開催	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	郷土の歴史や文化財について理解を深める講座を開催し、郷土を愛する人財の育成を図る。 ふるさと学習やボランティアガイドの実施、企画展開催、関係団体と連携し、町の歴史に関する普及事業を実施する。 また、要望に応じ資料貸出や資料調査、歴史に関する出前講座等の対応をする。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	26 千円	26 千円	30 千円

事業の実績・成果等（数値）	１．日本遺産関連パネル展（鯵ヶ沢・深浦・野辺地）の開催 ２．各種講座の開催・ボランティアガイド活動・出前講座等 ①歴史講座1回（参加者数40名）　②古文書講座(9回/述べ参加者数94名) ③ボランティアガイド　4件　④出前講座　3件 ３．ふるさと検定「のへじ検定」の開催 【申込者：14名（初級/6名、中級/7名、上級/6名）】【合格者：初級/3名、中級/6名、上級/4名】　【小学生:75名（合格52名）、高校:19名（合格18名）】 ４．まちあるき等の開催　↑合格率69%(R6：42%) ↑合格率94%(R6：70%) ・愛宕公園のまちあるき、港町さんぽの開催

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：　学校と継続した連携がとれており、幅広い年代への教育を図ることができている。 課題：　・事業の効果測定が難しいことから、成果が見えにくい。 ・人財育成のため小中高と連携を継続し、ふるさとを学ぶ機会の定着を目指す。 ・町を知ることができる施設として活用いただけるよう情報発信に努める。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見(参考:令和6年度の評価意見)

・学校教育においても郷土理解の部分で助けられている。今後も引き続きお願いする。

・幅広い世代に歴史や文化を学べる機会を提供できていると思う。

・継続を希望する。

・担当課評価のとおり。

・学校との連携が良好なのは評価できる取組であり、今後も積極的に進めてもらいたい。

評価委員意見(令和7年度)

・引き続き学校と連携した活動を望む。

・郷土を知ることは大事。学校他との連携もできている。

・郷土を愛する活動に心から感謝する。これからもブラッシュアップして頑張っていってほしい事業である。

事務事業評価シート

施　策　名	歴史・文化・芸術の継承と活用	担当課名	中央公民館
事務事業名	野辺地町文化祭	担当者名	二木　智徳

事業の目的・内容	文化祭実行委員会を組織して開催し、芸能部門と展示部門で、日頃の練習の成果や学習作品など発表。
事業の対象	文化振興協議会・みんなの教室・一般

事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	91 千円	105 千円	211 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和7年度に文化祭展示の部において、新たに工夫したこと ・まが玉づくり体験コーナー（青年の家から講師派遣） ・カトリック幼稚園児による絵の展示 ・鉄道模型コーナー ・野辺地の昔の写真展

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	令和7年度からみんなの教室講座に「祭り日」が加わったことで、文化祭芸能発表において演目に厚みが出来た。 「ササ踊り」、「沖揚げ音頭」に「祭り日」を加え野辺地町の三大芸能として文化祭を通じて継承され続けるよう努めていきたい。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・成果や作品の発表の機会はこれからも必要だと思う。日程短縮はいい判断だと思う。

・周知の必要とマンネリからの工夫が必要。

・継続を希望する。

・高齢化に対する取組を早急に行うようお願いしたい。

・キッチンカーを呼ぶなどの工夫が見られるが、発表だけでなく、他の企画も考えてみても良いのではないか。

評価委員意見（令和7年度）

・若年層も参加したくなる体験コーナーの拡充を期待する。

・いつも感じるのが、終わった後の反省会が行われない事。次をよくするためには参加者の意見を聞くことも必要だと思う。

・祭り日教室による「祭り日」の追加は良かったと思う。よいPRになるのでは。

事務事業評価シート

施　策　名	歴史・文化・芸術の継承と活用	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財活用事業の実施	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	文化財の周知・活用と活用人財を育成するため、下記事業を実施した。 ①縄文PR・活用事業の開催 ②日本遺産３港連携事業(日本遺産認知度向上・情報発信・人財育成事業)の実施 ③旧野村家住宅離れ（行在所）夜間特別公開の実施			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	1,259 千円	1,179 千円	771 千円

事業の実績・成果等（数値）	１．縄文PR・活用事業　※国指定重要文化財・土偶をＰＲする事業 野中美術部・デザイナーが縄文くららPRグッズ（缶バッジ）を作成。 行在所イベント・三内丸山遺跡センターで縄文くららPR体験会も実施。 ２．日本遺産3港連携事業 鰺ヶ沢・深浦町教委と、ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ・3町巡回ﾊﾟﾈﾙ展・ｷｯｽﾞﾂｱｰ・まちあるきを実施。 R7は青森市（青森駅・八甲田丸）にてパネル展・フォーラムを開催。 ほか、地域の歴史を知る校外学習を町内2小学校・2高校で実施(参加者数/128名) ３．旧野村家住宅離れ夜間特別開放　　来場者数/154名（R6/123名） 文化の日に行在所にてイベントを実施。今年度は新たにキッチンカーが参加。

事業の評価（自己評価）			
必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：引き続き学校や他自治体と連携し、文化財の周知・活用を図ることが出来た。 課題：　・町の歴史に関する認知度を向上には、事業の継続性が必要。 ・校外学習やまちあるき等で学んだ知識を活用できる場づくりの検討。 ・若い世代が関心を持つような切り口や情報発信手段が課題。 ・単独事業には限界があるため、多様な団体との連携が今後も必要。
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A

評価委員意見(参考:令和6年度の評価意見)

・町内の各種団体（のへじ宣伝部）と連携した取組により情報発信が効果的に行われ、より多くの町民が関わりをもてるようになってほしい。

・これからも継続が必要な事業だと思う。

・担当課の評価のとおり。

・他の団体と協力・協調して取り組みされ、ぜひとも継続していただきたい。

・町重要文化財の土偶のくららグッズに中学生が携わることにより、町への愛着・興味がわき、これから野辺地町を支えていこうという前向きな気持ちになれる事業であると思われる。継続を望む。

評価委員意見(令和7年度)

・他の団体や学生と引き続き連携して活動してほしい。

・他市町村との連携が取れており、これからもお願いしたい。予算減額による創意工夫に期待する。

・イベント毎に様々な工夫やブラッシュアップが見られ成長し続ける様子が伺える。これからも更に野辺地町のPRのため頑張っていただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	歴史・文化・芸術の継承と活用	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	民俗芸能の保存と継承	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	・「祇園囃子」「ササ踊り」「権現舞」「沖揚げ音頭」などの民俗芸能の後継者育成支援や発表機会の充実に努める。 ・映像や音声による民俗芸能の保存を図る。 ・祭り文化の継承と継承機運の向上を目指し、他町との文化交流、若年層が祭りへ参加するきっかけとなるための取り組みを実施する。			
事業の対象	一般（民俗芸能保存団体）			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	10 千円	82 千円	352 千円

事業の実績・成果等（数値）	①民俗芸能調査 ・弘前大学と熊野神社敬神組・下町大権現保存会を調査。 ②鰺ヶ沢町との祭り文化相互交流 開催日：8月16日（土）　白八幡宮大祭最終日　参加団体：駅前組祭典部 内容：R6年度交流した田中町町内会の山車及び山車行列の見学を実施。 ③まつり担い手育成事業（新規事業）　※講座講師は町内各祭典部 開催日：若葉小6/26～7/24（全7回）、野小7/2、山車づくり講座7/22～24 内容：　・野辺地小学校4・5・6学年児童に対するお祭り講座（参加：108名） ・若葉小学校５学年児童に対するお祭り講座（参加：31名） ・山車づくり講座（町内小学生延べ21名）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果：　学校・祭典部と連携し、新たに若年層への継承事業を実施できた。 課題：　・担い手確保のため、各団体と町民を結び付ける取組の継続が必要。 ・民俗芸能は変化するため、毎年調査し記録する必要性がある。 ・鰺ヶ沢町との祭り文化交流を進め、お互いに民俗芸能継承機運を高めたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・民俗芸能が絶えることがないように、これからも継続をお願いする。

・全国的に民俗芸能の保存と継承に苦労しているのが現実ではあるが、１人のパッション、２人のビジョン、３人のチャレンジとつながっていき、何とかアイデアを出しつつ続けていってほしい。

・保存活動や継承は一気にやれるものではないので、少しずつでも前進してもらいたい。

評価委員意見（令和7年度）

・学校の出前授業や、学校からの祭り参加者への呼びかけで少しずつ参加者が増えている。継続を希望する。

・民俗芸能は継承が大事。お祭り講座の継続を希望する。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土史資料や文化財の保存・活用の促進	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	資料のデータベース作成・整備事業	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	文化財保存を図るため、歴史民俗資料館収蔵資料の整理と管理を行う。 また、収蔵資料の活用を図るため、整備・調査を行う。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	216 千円	258 千円	371 千円

事業の実績・成果等（数値）	・収蔵資料の整理（リスト化・写真撮影）、データベース作成。 ・旧有戸小学校内に保管している埋蔵文化財の確認、整理作業を実施。 R7作業：発掘調査図面・写真の整理、角鹿コレクションの再整理

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題	成果：少しずつ資料の整理と管理が進んできている。 課題：　・遺跡発掘調査出土資料の管理や大型民具等の収蔵スペースの確保。 ・データの保存場所や閲覧できる媒体（タブレット等）の検討が課題。 ・資料整理には専門知識が必要なため知識を有する人材と連携が必要。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・課題解決に向けて計画的に進めてほしい。

・「百年後に野辺地町の現在・過去の歴史が残っていたら…」と考えるとロマンを感じる。気の遠くなるような作業かと思うが、継続して一歩一歩進んでほしい。

・大変労力が必要な事業であり、根本的に進め方を再考してもいいのではないか。

・時間をかけても良いので、今後の野辺地町の文化の継承のためにも継続を希望する。

評価委員意見（令和7年度）

・課題解決に向け取り組んで欲しい。

・地道に取り組んでほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土史資料や文化財の保存・活用の促進	担当課名	中央公民館・図書館・歴史民俗資料館
事務事業名	中央公民館・図書館・歴史民俗資料館の施設の整備	担当者名	濵野・吉田・山崎

事業の目的・内容	経年劣化等による各施設の修繕や利用者ニーズにこたえるため施設整備を行う。			
事業の対象	施設及び設備			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	4,680 千円	6,275 千円	27,891 千円

事業の実績・成果等（数値）	○R7三館の主な整備費 中央公民館 ・工事－カーテン取替工事　他1件　1,511,400円 ・修繕料－浄化槽ポンプ室扉交換　他5件　663,520円 ・合計　2,174,920円 図書館 ・工事－自動ドア改修工事　1,419,000円 ・修繕－野外ベル修繕　他5件　827,420円 ・合計　2,246,420円 歴史民俗資料館 ・修繕－史跡看板修繕　他6件　926,376円

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果：予算の範囲内で施設の適切な維持管理を行った。 課題：施設の老朽化による修繕箇所が年々増えており、各施設において計画的に実施しているが突発的な修繕が発生しているため引き続き施設整備を継続していく。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・これからも安全で快適に利用できるようにお願いする。

・歴史民俗資料館のエアコンの導入を早期に望む。（毎年暑さが増している）

・老朽化が目立つ施設ではあるが、利用者が快適に利用できる施設であるよう努力してもらいたい。

・公民館の清掃がとても行き届いており、気持ちがよく利用できる。

評価委員意見（令和7年度）

・歴史民俗資料館のエアコン導入を早期に望む。

・引き続き施設整備を行ってほしい。

・計画的な維持管理をしてほしい。

・公民館の清掃がとても行き届いており気持ちよく使用することができる。古くてもきれいな施設を維持し続けて欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土史資料や文化財の保存・活用の促進	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	史跡・文化財の維持管理と公開	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	・県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」「一里塚」の維持管理。 国登録有形文化財[旧野村家住宅離れ」の公開と維持管理。 ・町指定、未指定史跡の維持管理。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	3,271　千円	6,604　千円	3,925　千円

事業の実績・成果等（数値）	支出　・藩境塚維持管理費　546,612円　・エドヒガン剪定費 ・戦死者の墓所事業費　4,440,840円　554,400円 ・行在所維持管理費　1,063,020円 ■藩境塚　開放期間：4月7日～11月30日（公衆トイレ清掃/週5日） ■野辺地戦争戦死者の墓所　開放期間：通年（花壇整備/馬門長生会） ・支障木伐採、強風による倒木被害の賠償金等 ■行在所 公開期間：4月1日～11月30日　見学者(記帳者)数：723人(町外310人) ・通常の維持管理、庭園内の樹木剪定、説明看板修繕 ■一里塚　開放期間：通年（積雪期見学不可）（2か月に1回草刈りを実施）

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果：　史跡の維持管理を図れてはいる。 課題：　・無人の施設であるため、防犯対応策が必要。 ・各史跡の案内板や施設等の老朽化がみられ、順次修繕が必要。 ・古い史跡が多いため、各史跡内の樹木や庭園管理の必要性がある。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見(参考:令和6年度の評価意見)

・課題解決に向け、計画的に進めてほしい。

・「文化の日」のイベントのアイデアは良いと思うが、寒い日と重なる日が多くて残念。

・野辺地町には宝が多いので、もっと野辺地物語をＰＲしてほしい。

・適切な維持管理はされていると思われる。これからも継続していただきたい。

・藩境塚の整備も行き届いており、大切に扱っているのがわかる。維持費が掛かり大変だと思うが、町の大切な財産であるので、引き続きお願いしたい。

評価委員意見(令和7年度)

・行在所の利用者の半数近くが町外との事から、のへじ宣伝部などで町外へ向けて発信してほしい。

・維持管理とPRが必要。

・範囲が野辺地町全域に及び維持管理が大変とは思うが、町の大切な歴史の跡なのでこれからも計画的に継続していただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土史資料や文化財の保存・活用の促進	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財調査事業	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	町内の指定・未指定文化財の保護と活用を図るため文化財調査を行う。 また、調査文化財は保存と継承を図るため、文化財指定（町・県等）を進める。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	870 千円	985 千円	904 千円

事業の実績・成果等（数値）	①祇園囃子・神楽の保存・継承に係る調査（複数年度実施予定） 弘前大学非常勤講師・下田雄次氏へ依頼し、祇園囃子・神楽の演奏技術の継承について調査（調査回数：6回）。3月には調査内容の報告会を開催した。 ②資料館収蔵資料整備業務　「教育パック作成事業」（複数年度実施予定） 弘前大学人文社会科学部博物館実習室と連携し、野辺地の昔のくらし等を知ることができる資料を詰め込んだ「野辺地の民俗教育パック」を作成する。令和7年度は聞取り調査を実施し、内蔵資料案を決定した。　（調査人数：16名）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：　弘前大学との連携により、町内の民俗文化財の調査が進んでいる。 ・調査により教育パックに詰め込む内容の検討ができたため、次年度以降も調査を進め、各地区の特徴把握や内蔵資料の決定や説明資料の作成を行う。 課題：　・本事業は単独ではできないため、弘前大学との関係性継続を図る。 ・祇園囃子・神楽の調査は単年度で成果を出せないため、継続して実施する必要がある。
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・民俗教育パックの作成に期待する。小学校社会科、総合での活用が期待できる。

・民俗教育パックの早期活用に期待する。

・民俗教育パックを楽しみにしている。考えるだけでもわくわくする。

・マンパワー不足が心配である。専門知識も必要であるが、無理をしないように。

・民俗教育パックという新しい挑戦を頑張っていただきたい。応援する。

評価委員意見（令和7年度）

・調査、研究の成果を町民の目に見える形で引き続き残してほしい。

・他事業も含め、マンパワー不足が課題と思われる。

・弘前大学との連携を続けてほしい。

・令和９年度実施予定の「野辺地の民俗教育パック」に大いに期待する。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土史資料や文化財の保存・活用の促進	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事業	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	文化財保護を図るため、開発行為が予定されている埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行う。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	令和　6　年度決算	令和　7　年度決算	令和　8　年度予算
	金　額	107 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	・向田（8）、（9）遺跡内の開発行為に伴う現地踏査　1件 ・開発業者からの周知の埋蔵文化財包蔵地照会事務を随時実施。 ・文化財パトロール実施　36件

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：　文化財ﾊﾟﾄﾛｰﾙ員と協力し埋蔵文化財行政事務を滞りなく実施している。 課題：　・埋蔵文化財事務は文化財パトロール員と連携し実施しているが、人材の確保が必要不可欠である。 ・埋蔵文化財包蔵地内での無届開発が懸念されることから、届出に関する周知が必要と思われる。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B

評価委員意見（参考：令和6年度の評価意見）

・専門知識も必要とのことで難しいと思うが、早期に人材確保をお願いする。

・なかなか目に見えるような活動ではないが、野辺地町の歴史を形作っていたものの一つとして、これからも継続して調査をお願いする。

・確かに人材不足であり、しっかり対応すべきと考える。

評価委員意見（令和7年度）

・人材確保を含めた保存活動をお願いする。

・対応はしっかりお願いしたい。

・目に見えにくい事業ではあるが、人材不足を解消して活動の継続を希望する。